

トキとの共生

創造を
想像する

■トキとの共生を目指す里地

一昨年の8月、環境省が進めている「トキとの共生を目指す里地」にかほ市が選ばれました。

この事業で環境省は、トキとの共生を目指す里地をA地域とB地域の二つにわけています。A地域はトキの野生復帰を目指し、実際にトキを放鳥する地域です。具体的には石川県能登地域の1市9町と島根県出雲市の2地域が予定されています。

もう一方のB地域は実際の放鳥はしないものの、トキが飛来して羽を休める場所、自然繁殖していける場所に選ばれるとされる地域で、にかほ市が選ばれたのはこのB地域になります。今後、市はトキが飛来し、自然繁殖できるように環境づくりを進めていくことになります。

■トキの復活

平成15年に国産のトキが絶滅しました。国は絶滅前から中国産のトキでの人工繁殖を進め、平成20年には人工繁殖によるトキ10羽の佐渡での放鳥を成功させました。それから16年余り、佐渡のトキは自然繁殖で安定して増え始め、野生のトキは500羽を超えるまでになりました。

ところが昨年、毎年増え続けていた野生のトキの数が減少に転じました。実はこのことはすでに予測されていた。原因は野生のトキの数がいっばいになりすぎて繁殖場所がなくなっ

ていたからです。そこで環境省が解決策として打ち出していたのが、生息域を拡大させるための取組み、「トキとの共生を目指す里地」づくりでした。

■にかほ市にもトキは来ている

皆さんの中には「なぜにかほ市とトキ？」と不思議に感じている人がいるかと思っています。かく言う私も「トキⅡ佐渡」というイメージが強いです。かつてトキは日本全国どこにでもいました。ですが、いま私たちがトキをふだん見ることはありません。トキは正直馴染みのない鳥になってしまっています。

ところが平成23年、酒田市、遊佐町、旧西目町、仙北市で佐渡のトキの飛来が確認されたことがあります。間違いなくトキはにかほ市上空も飛びました。つまり、将来的なトキとの共生は決してありえない話ではないのです。

■応募のきっかけ

にかほ市がトキの里地に応募したきっかけは、県立大学の近藤正先生から「環境省が進めているトキとの共生を目指す里地に手をあげてみてはどうですか」と提案いただいたことによります。

「にかほ市はトキが生息するのに適した環境にあります。トキが飛来し、巣をつくり、繁殖し、生息し続けるには、えさ場となる湿原や水田、巣をつくるための松林などがなければなりません。にかほ市にはすべてがそろっています」と先生は熱く語ってくれました。

とは言え、市が勢いだけで事業をはじめ

めることはできません。当然、提案された内容にかほ市に相応しいものでなければなりません。ただ、今回の話を聞いたとき、その内容は市のこれまでの取組み、これから進めていこうとしている取組みのどちらとも親和性が高いと私は感じました。たとえば、

▽湿原や流山をジオサイトとして保全活用することを目的とした鳥海山・飛鳥ジオパークの取組み

▽アイガモロボを使用した減農薬による有機米栽培を目指した環境保全型スマート農業の取組み

▽天然記念物「象潟」の保全と生物多様性に配慮しながら進められている景観保全型圃場整備事業

などは、いずれもトキが生息するのに適した環境づくりとシンクロしています。トキとの共生を目指す里地づくりに、にかほ市はまさにうってつけなのです。

そして近い将来、この事業がどんどん広がり、にかほ市の上空をふつうにトキが飛んでいる、そんな光景を多くの人が見ることができるようになる、そんな夢が実現したらこんなにロマンチックなことではないと私は思います。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

